

⑫ 実用新案公報 (Y 2)

昭57-58332

⑮ Int.Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑯ 公告

昭和 57 年 (1982) 12 月 14 日

F 01 P 1/06

6477-3G

Vベルト

外気

(全 3 頁)

① 動力農機における冷却装置

審 判 昭54-6378

② 実 願 昭49-20846

③ 出 願 昭49 (1974) 2 月 22 日

④ 公 開 昭50-111535

⑤ 昭50 (1975) 9 月 11 日

⑥ 考 案 者 首藤矩夫

松山市土居田町13区 588

⑦ 考 案 者 五十嵐高

松山市土居田町13区 588

⑧ 考 案 者 今西克己

松山市土居田町13区 588

⑨ 考 案 者 山本武恵

松山市土居田町13区 588

⑩ 考 案 者 岡崎俊恵

松山市土居田町13区 588

⑪ 出 願 人 井関農機株式会社

松山市馬木町 700 番地

⑫ 引用文献

実 公 昭44-13057 (JP, Y1)

⑬ 実用新案登録請求の範囲

強制空冷用冷却風吸入口 12a を備えたエンジンカバー 12 で羽根 14 付のフライホイール 13 が
 25 板れ、安全カバー 11 で原動ブリー 6・主軸ブ
 ーリー 8 およびこれらに掛け渡された伝動ベルト
 9 の全周が被われ、この安全カバー 11 は、原動
 ブーリー 6 側と主軸ブリー 18 側とに前開口部
 11a と空気導入口 15 とを備えていて、羽根 30
 14 の回転で空気導入口 15 から吸い込まれた空
 気が伝動ベルト 9 および原動ブリー 6 のそばを
 通つて前開口部 11a からエンジンカバー 12 内
 に吸い込まれるように、強制空冷用冷却風吸入口
 12a に前開口部 11a を合せて設けられている 35
 ことを特徴とする動力農機における冷却装置。

考案の詳細な説明

この考案は、耕耘機等の動力農機における伝動
 ベルトの冷却装置に関する。

従来の動力農機では、エンジンとギヤケース間
 5 を V ベルト等の伝動ベルトを使用して動力伝達を
 行う場合、該伝動ベルトの外周及び外側面は通常
 カバー体で被覆していたが、内側面を開放してい
 た為、作業者がこの開放部から手指を挿入した場
 合回転している伝動ベルトと伝動ブリー等により
 10 手指を切損する事故を引起していた。この為安全
 面から伝動ブリー・伝動ベルト等の回転体は、
 全面をカバー体で覆うようにして手指が挿入でき
 ないような構成となつてきた。

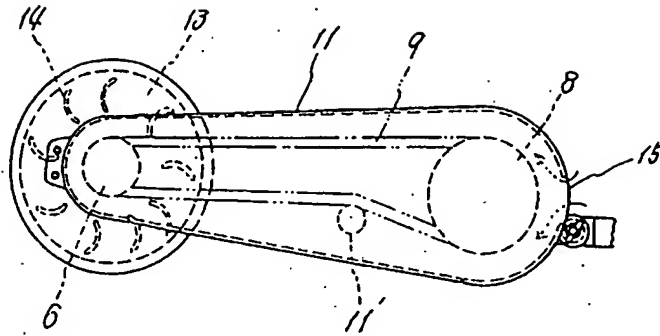
しかし、このように全面をカバー体で覆う
 15 になると、エンジンからの伝導熱により温度上昇
 する原動ブリーが駆動抵抗の増減により、伝動
 ベルトとの間で滑り摩擦を生じると、カバー体内
 の空気の流通がないため途端に伝動ベルトの温度
 が上昇したまま下がつてこなくなる。

20 この温度上昇に伴ない伝動ベルトが延び、これ
 によりさらに伝動ベルトのスリップが増大して過
 熱の恐れを有していた。

このような不具合を解消するため、本願考案は
 次のような技術的手段を講じた。即ち、強制空冷
 25 のエンジン 4 において、エンジン 4 から機体 2 の
 主軸 7 へ動力の伝達をする原動ブリー 6・伝動
 ベルト 9・主軸ブリー 8 からなる伝動装置の前
 後側面・上下側面および左右両側面を被覆する安
 全カバー 11 における前開口部 11a を、エンジ
 ンカバー 12 の冷却風吸入口 12a に連通したこ
 とを特徴とする動力農機における冷却装置の構成
 とした。

次に、図面に示す実施例に基づいて、この考案
 を説明すると、1 は動力農機で、この動力農機 1
 の機体 2 には、前方に突出するように搭載枠 3 を
 取付け、この搭載枠 3 にエンジン 4 を搭載し、エ
 ンジン 4 の原動軸 5 には原動ブリー 6 を取付け

第2図



第3図

